

【岩成台小学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年9月29日（月）午後6時30分～午後8時15分

2 開催場所

岩成台小学校 体育館

3 参加者数 23名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	主幹	梶田 英男
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

岩成台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（岩成台小学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 岩成台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 47 年度から令和 13 年度までの、岩成台小学校の児童数の推移は、昭和 55 年度の 750 人をピークに、令和 13 年度では 78.3%減少の 163 人と推計される。

- ・岩成台小学校は、今年度、児童数 201 人、8 学級で、学校規模は、クラス替えができない学年のある「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度から全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・岩成台中学校は、今年度、生徒数 235 人、7 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後、生徒数及び学級数は減少し、令和 22 年度では「過小規模」であると推定される。
- ・岩成台西小学校は、今年度、児童数 295 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 12 年度から「小規模」になり、令和 22 年度では「過小規模」であると推定される。

＜アンケート結果について＞（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、岩成台小学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 60.2%、地域の方で 73.5%となっている。

「反対」の方は、保護者で 11.0%、地域の方で 14.7%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「緊急時の避難場所が遠くなる可能性」を多くの方が心配している。また、岩成台小学校に岩成台西小学校を加えた、岩成台中学校区の小学校「全体」の結果も、岩成台小と概ね同様の結果となっている。

- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、岩成台小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」や「集団活動における適応能力が磨かれるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

小学生の保護者では、「複数学級を望ましいと考えている人」は 96.8%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 85.9%となっている。その中で、岩成台小学校を個別に見ると、複数学級を望ましいと考えている保護者の方は 95.1%、児童では 72.6%となっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「運動会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。

地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもの人間関係に広がりがあること」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和22年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が1学級の「過小規模」とであると推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、岩成台中学校区は藤山台中学校区、高森台中学校区と接しており、岩成台中学校は、直線距離で、藤山台中学校から約0.9 km、高森台中学校から約2.3 kmの距離に位置している。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、岩成台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 岩成台中学校については、「過小規模」となると推定されること、また、小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要がある。
- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問 1】

高座台は高蔵寺中学校に近いことから、岩成台中学校区と高蔵寺中学校区との統合は検討に入っていないのか。

【事務局】

今回の取組は坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の 5 つの中学校区を対象にしています。まずは、ニュータウンの 4 中学校区の中で、学校が適正な規模となるように検討していきます。

【質問 2】

藤山台小の統合の際、統合して良かった点、悪かった点について何か意見があったか。

【事務局】

藤山台小は 3 校が統合し、平成 28 年に開校しました。良かった点としては、「新しく充実した施設で過ごすことができる。」、「統合したことによって、児童数が増えクラス替えもできるようになったので、多くの友達と関わるができるようになった。」、「運動会を始めとした学校の行事が活発になった。」が挙げられます。

一方で、課題としては、「通学区域が広がり、通学時間がかかるようになったこと」が挙げられます。統合の際に一部の地域の方から、新しい学校への通学の負担が大きいのという理由から通学区域を変更した例もあります。

【質問 3】

小中学校の適正規模についてだけでなく、まちづくりの視点で若者が選んでくれる街にしてほしい。学校を変えるだけではない。

【事務局】

市では、ニュータウン地区の活性化を目的に様々な施策に取り組んでいます。また、UR 都市機構も若い人を呼び込む施策を進めており、市と協力して取組を進めているところです。UR 都市機構は、高森台地区で団地を高森台テラスとして整備するなど、若い世代を呼び込む施策を進めています。

【質問 4】

将来的にこの地域に家を建てたいと考えている方たちにとっては重要な問題である。今後のスケジュールなど、統合に関する情報は早めに知りたい。マイホームを建てる人は情報を後で知ると不安になる。分かりやすいホームページづくりを心掛けてほしい。

【事務局】

今後、子どもの人数が減っていくことを考えると、できるだけ早くこの課題を解決したいと考えています。

統合するとなったとして、新しい学校をつくる場合、既存の学校をリニューアルする場合、既存の学校を使う場合など、それぞれの手法で差はありますが、工事が必要となれば5年程度の期間がかかります。

情報提供については、今後も市ホームページに掲載していきます。今どんな検討をしているかなど、随時情報発信をしていきたいと考えています。

【質問 5】

アンケートの推計値について、地域の転出、転入の傾向も踏まえて計算しているのか。

【事務局】

中学校の令和 19 年度、小学校の令和 13 年度までは、現在の人口をベースに転出・転入の社会的増減要因を加味して推計しています。宅地造成などの要因についても確認できている範囲で加味しています。

【質問 6】

統合すると子どもの家はどうなるのか。学校の規模が多くなると、定員はどうなるのか。

【事務局】

子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、統合後の学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたいと考えています。

【質問 7】

年中の子がいる。クラスは複数あった方が良いと思っているが、スケジュールが気になる。ホームページでの情報提供はありがたいが、保育園のアプリなどでも配信をお願いしたい。

【事務局】

保護者への連絡アプリなどが利用できる保育園や幼稚園には、園にご協力いただき、アプリなどを通じた情報提供をしていきます。アプリなどのシステムが利用できない園は、チラシを園の掲示板に貼っていただくなどにより、保護者の皆様に情報が届くように努めていきます。

【質問 8】

小学校の統合について、高座小学校に通った方が近い人もいると思う。高座小への通学を希望すれば叶うのか。

【事務局】

仮に統合する場合、基本的には現在の小学校区で考えることとなります。ただし、個人の希望だけではなく、地域全体のまとまった意見として希望されるような場合は、通学区域の変更も検討していきます。

【質問 9】

高蔵寺ニュータウンは、まちの価値が下がっているのではないかと感じる。家を買うとなるとクラス替えがない学校の地域は選ばれない。春日井市から出ていく人もいるので、今回の取組をまちづくりの考え方を見直すきっかけにしてほしい。

また、スクールバスを走らせて魅力ある小中一貫校をつくってほしい。みんなが行きたくなる学校をつくってほしい。

【事務局】

皆様とまちの活性化につながるような魅力ある学校づくりを検討していきたいと考えています。

【質問 10】

統合するとなれば数年後の話だと思うが、現在の学校施設の修繕についてはどう考えているか。

【事務局】

学校生活をしていく上で不便があるところは随時、修繕していきます。施設の大規模改修については、統合の方向性を見極めてからになると考えています。

【質問 11】

藤山台を統合した理由を聞きたい。その際に、通学先を変更した人がいると聞いたが、本来の学校規模の適正化の目的から外れているのではないか。スクールバスを使って藤山台小学校に通う考えはなかったのか。

【事務局】

当時の藤山台小学校は、児童数が少なく今後も減少傾向を示していたことや、学校施設も古かったことなどから、学校の統合を実施しました。

通学先の変更については、地域全体で通学区域の変更の要望があり、通学区域審議会にて、妥当性が判断され認められました。

また、当時はスクールバスの議論はほとんどなく、あくまで徒歩で通うことを前提とした議論をしていました。

【質問 12】

小中学校は防災拠点としての役割がある。跡地の建物などは防災拠点として使う必要があると思う。

【事務局】

現状、跡地の利活用について、決定していることはありません。学校が防災拠点や投票所として使用され、地域の方の拠点施設となっていることは承知しています。

しかし、学校規模の適正化等の取組については、子どもたちの教育環境の向上を最優先に考えたいと思っていますので、跡地の問題は一旦切り離し、市全体で別に検討したいと考えています。

【質問 13】

学校の適正規模等にすぐに取り組む必要があるのか。岩成台地区と他の地区と比べてどの順番で実施していくのか。

【事務局】

中学校区内の全ての小学校が過小規模校、又は小規模になる中学校区を優先的に取り組むこととしています。順番については決まっておらず、皆様と協議をしていく中で、地域の意見がまとまった中学校区から、可能な限り早く進めていきたいと考えています。

【質問 14】

学校規模の適正化等の取組を急ぐ必要はないと考える。別の学校での説明会で、部活動の活性化のために統合を進めたいという意見も聞いたが、地域クラブの活動もあるので、部活動のために統合を進めることは論点がずれると思う。

また、跡地の利活用の方向性も決まっていないことに不安を感じる。

さらに、統合のタイミングで学校にいる子は、環境が大きく変わることによって受験に不利になるかもしれない。今後のスケジュールなどのアナウンスは早くしてほしいし、子どもの将来に向けての準備期間、心の準備期間が必要だと思う。

【事務局】

仮に統合するとなった場合、子どもの環境が大きく変わるので、子どもたちへの精神的なケアは必要になると考えます。統合する学校同士の事前の交流も考える必要があります。スケジュールについては、最終的にどの時期に統合するということからさかのぼって考え、適切に情報提供をしていきます。

また、跡地については、子ども、保護者や地域の皆様の意見を聞きながら、検討していきたいと考えています。

【質問 15】

アンケートは住民投票とは違うので、合意形成の根拠には使えないと考える。いろいろな方の意見は取組にどのように反映されていくのか。どのような手続きをとって、これから進めていくのか。

【事務局】

今後の進め方としては、中学校区全体で2回目の意見交換会を開催します。その後、中学校区で保護者や地域の代表の方、学校関係者などで協議会のようなものをつくり、具体的な検討を続けていくことで取組を進めていきます。

最終的には行政が方向性を判断して決めることになると思いますが、その前に皆様との議論をしっかりと行っていきます。

【質問 16】

より良い教育環境の充実には先生の力が必要だと思う。先生たちとも連携をとって取り組みを進めてほしい。

【事務局】

先生方との意見交換も大切だと考えています。議論をしながら、魅力ある学校づくりを検討していきたいと考えています。

【質問 17】（意見）

ニュータウンは地盤も強く、浸水や土砂崩れもない。安心できる土地である。

私立の学校に行くより地元の学校が良いと言われるような、他の地区からも住みたいと思われるようなビジョンを考えてほしい。

【質問 18】（意見）

仮に統合するとなったとしても、避難所としての機能は維持してもらわないと困る。体育館だけではなく、教室も避難所として使うなどの考えも必要だと思う。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・まずは、本日開催している意見交換会を岩成台中学校区の各小中学校で開催し、その際にいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は岩成台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。

- ・その後、岩成台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へは Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 8 時 15 分 閉会